

広島空港
ロータリークラブ
2025-26

2025-26年度 RI会長メッセージ

よいことの
ために
手を取りあおう



Weekly Report

Hiroshima Kuko Rotary Club

2025年8月30日発行



会 長 川本 吉則
副会長 三好 敏之
幹 事 佐々木正親
SAA 河井 一朗

事務局 三原市本郷南6丁目3-26 三原臨空商工会2F
T E L 0848-86-0986 F A X 0848-86-0992
E-mail h.kukorc@vega.ocn.ne.jp
例会場 広島エアポートホテル(TEL 0848-60-8111)

2710地区 土肥慎二郎ガバナー 信条

Enjoy Rotary～思いやりと奉仕の心で～

本日のプログラム(8月30日)

親睦委員会
「納涼例会」

次回のプログラム(9月3日)

会員増強委員会
「会員増強会議」

第1345回 2025年8月20日 土肥ガバナー公式訪問例会記録

会長・幹事会 11:30～12:00 例会 12:30～13:30 フォーラム 13:40～15:00



会長・幹事会



例 会

例会プログラム

司 会 SAA 河井 一朗

点 鐘

会 長 川本 吉則

国歌斉唱 「君が代」
ロータリーソング 「奉仕の理想」

ガバナー・ガバナー随同行幹事
ガバナー補佐・ガバナー補佐随同行幹事紹介

会 長 川本 吉則

～ 食 事 ～

委 員 会 報 告

スマイルボックス

SAA 河井 一朗

会 長 時 間

会 長 川本 吉則

幹 事 報 告

幹 事 佐々木 正親

卓 話 時 間

土肥 慎二郎ガバナー

点 鐘

会 長 川本 吉則

記 念 撮 影

点 鐘 川本会長
ロータリーソング「奉仕の理想」

ゲ ス ト 紹 介

ガバナー 土肥慎二郎様(東広島21RC)
ガバナー随同行幹事 松重宏治様(西条RC)
ガバナー補佐 森崎正治様(広島空港RC)
ガバナー補佐幹事 澤井一徳様(広島空港RC)

出 席 報 告

	会員数 シニア会員	出席者	メイク	欠席 (免除)	出席率
本日 (8/20)	28 2	20	1	5 2	80.77
メイク	七川				

食 事 時 間



イベリコブチサラダ 胡麻ドレッシング バケット
トウモロコシの冷製クリームスープ コーヒー 又は 紅茶
豚背ロース肉のミラノ風カツレツ
デミグラスソース ポテト・オクラ・人参

会 長 報 告



一昨日、ウクライナ・ゼレンスキーとアメリカ・トランプの2回目の会談が行われました。

前回の反省もあり、ゼレンスキーはジャケット着用でヨーロッパの首脳たちも引き連れてホワイトハウスにやってきました。

トランプに会うなり、ゼレンスキーは感謝の言葉を何度も伝え、ヨーロッパ諸国の首脳陣はトランプに称賛の言葉をかけ続けます。

ニュース番組を見ていて違和感を感じたのは私だけでしょうか？

満面の笑みを浮かべるトランプが裸の王様に見えたのは私だけでしょうか？

しかしながら、戦争終結にけるみんなの思いは強く感じる事が出来ました。

一刻も早くロシア・ウクライナ戦争の終結を願います。

幹 事 報 告



【回覧】

- ・9月 例会出欠確認表
- ・10/11(土)商工会まつり チャリティーバザー 協力をお願い
- ・広島ローターアクトクラブ 千羽鶴例会のご案内

報 告 事 項

商工会まつり チャリティーバザーについて

近藤会員

10月11日(土)に行われる三原臨空商工まつりで、チャリティーバザーに1日だけの参加が決まりました。バザーに出品する品物を集めますので、皆様ご協力お願いいたします。

報 告 事 項

マダニについて



楠部会員



卓 話 時 間

「公式訪問」



土肥 慎二郎ガバナー

皆さん、こんにちは。本年度ガバナーを務めます東広島21RCの土肥慎二郎です。

本日は20クラブ目の公式訪問になります。どうかよろしくお願い致します。

広島空港RCは1994年4月9日に三原ロータリークラブをスポンサーとして創立されたと聞いております。

当時のことを私はよく知らないのですが、私は広島空港RCとは非常に縁が深いようです。クラブの創立総会に、当時西条RCの会長をしていた私の父が出席しています。

また、自宅から近いせいもあり、私自身たびたびメーキャップをさせていただきました。

医師会でお世話になっている楠部先生もおられます。

そして今年度は、人生でも、高校でも、そしてロータリーでも大先輩の森崎さんにガバナー補佐をしていただいております。

今日は少々緊張しておりますが、どうかよろしくお願い致します。

さて、今年度より国際ロータリーは、RI会長のテーマを廃止しました。

理由は簡単です。

2017年に発表したロータリーのビジョン声明とそれを実現するためのロータリーの行動計画がなかなかクラブに浸透しないからです。

最近のRI会長のテーマを並べてみましょう。

2022-23年度 河井会長 ジェニファー イマジン・ロータリー

2023-24年度 鶴田会長 ゴードン 世界に希望を生み出そう

2024-25年度 小島(おばた)会長 ステファニー・ロータリーのマジック

このように、RI会長が毎年違うテーマを出され、それに則ってクラブを運営する。

これではいつまでたっても「ロータリーのビジョン声明」が浸透するはずがないのです。

2000年ごろより、世界のロータリアンの数は減り続けています。

そして毎年16万人が入会して、17万人がやめている、しかもそのうちの2万人は入会3年未満の会員である、このような現実があります。

これに危機感を覚えた国際ロータリーは、組織に問題があるのでは…と考えました。

なんで会員は辞めちゃうんだろう？ なにが物足りないの？

そして全会員からアンケートを取り、専門家の意見も取り入れ、今後ロータリーという組織がどのような組織になったらいいのかを謳ったのがこ

の声明です。

「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取りあって行動する世界を目指しています。」

わたしは、この声明のポイントは2点あると思います。

ロータリアンが手を取り合って行動すればもっと素晴らしいことが出来る、これが1点、

そしてもう1点は自分自身の中で…という部分、これが私は一番重要なポイントだと思っています。

札幌東RCに塚原さんというパストガバナーがおられるのですが、次のように言っておられます。

「ロータリーは困っている人を助けてあげることだと思いがちですが、実際は助けられているのは自分の方かもしれません」

みなさんどう思われるでしょうか？

そしてこのビジョンを実現するために「ロータリーの行動計画」が発表されました。

この行動計画は4つの優先項目からなっています。

ただ、これだけを見ると、何のことだかよくわかりません。

しかしながら、国際ロータリーの理事会は、今後ロータリーは、この計画を基に進んでいくということを確認し、決定しております。

とすれば、我々はこれを理解しなければならない、そのように思っております。

「より大きなインパクトをもたらす」これだけを読みますと、多くの人はポリオの根絶をはじめとする規模の大きいプロジェクトを想像されるのではないかと思います。そして「クラブ単独でそんなに大きなことは出来ないよ」

そのように思われる方もおられるかもしれません。

ところが、ここでいうインパクトとは規模や成果の大きさを表しているものではありません。ロータリーの行動計画でいうインパクトとは、そのプロジェクトが、いかにその人たちの人生を変えたか？ということです。

昨年度国際ロータリーのアーチック会長は、ダイエットを例にしてこのように言われました。

ダイエットにおいては、体重が何キロ減ったのか？というのが大切なわけではありません。いかに健康になったか？ということが大切なのです。

そのように考えますと、我々ロータリアンが行なう地元の地域社会への様々な活動は、どれもが、意義深いインパクトのあるものになり得ると思います。

職業奉仕、これは私たち職業人にとって最も実践しやすい奉仕であることは明らかです。

そして地域社会が本当に望んでいる奉仕活動に取り組むことも大切でしょう。

青少年へのスポーツ支援や日本に住んでいる外国人を対象とした奉仕活動などもいいと思います。

米山奨学生や財団奨学生、インターアクト、ライラ、青少年交換、それらもすべて、何かしら人の人生を変えるきっかけとなり得るプログラムだと思います。

と同時に、私たちは同じ志を持った、世界中120万人とつながったネットワークですので、ロータリー財団を通じての大規模なプロジェクトにも目を向ける必要があります。

これは寄付、という形で、私たちは、いつでも自発的に行うことが出来ます。

皆様方の善意をいただけましたら幸いです。

続いて「参加者の基盤を広げる」ですが、これはその名の通り会員を増やすことです。

今年の国際協議会でもマリオ会長エレクトをはじめ多くの演者が会員増強の大切さを訴えました。「従来の昼の例会に出席できない人を参加させるにはどうしたらいいですか？」

「皆さんの地域にはどんな方がいますか？伝統的なクラブに入るのは無理だとしても、ロータリーの奉仕には興味を持っている人がいるかもしれませんよ。どうしますか？」

このような問いかけがなされました。

これは、いわゆるクラブ運営方法の柔軟性、例えば、例会の時間とか回数を、会員のニーズに合わせて変更することを指すのでしょうか。

それから、衛星クラブやパスポートクラブなど新しいタイプのクラブも考えてみてください、ということなのでしょう。皆さんはどう思われるのでしょうか？

そして「参加者の積極的なかわりを促す」、「適応力を高める」

これは、会員増強にもつながる話しだと思いますが、要は「会員がクラブに何を求めているか？」ということを実際に考えなければならない、という事だと思います。

ロータリーって組織は結構アンケートが好きで、あちこちでアンケートをとっています。

会員がロータリーに求めるものとして、国によって違いがあるそうです。

日本においては最も多かったのが「親睦」でした。それがアメリカでは「倫理観」です。

世界全体でみると「情報の透明化」これが最も求められていることのことでした。

それから日本のロータリアンに「あなたにとってロータリークラブの価値とは何ですか？」と聞いてみたそうです。皆さんはどう答えますか？

一番多かったのが「自己研鑽、学習、成長」だったそうです。

2番目は「地域社会への貢献」

3番目は「生涯の友人、そして魅力的な仲間」だったそうです。

それから年齢別での傾向として、若い会員は「人脈が広がる、とか、事業の機会がアップする」これを求めているのに対して、比較的高齢の会員さんは「生涯の友人、魅力的な仲間」これを求めている傾向があったようです。

世代間のギャップということを考えるうえで、参考になるかもしれません。

それからDEI、ロータリーでは、会員一人一人にとって、居心地がよく、帰属意識が持てるクラブ運営が何より重要だと考えております。

これらを推進するために、前年度の会長エレクトだったブラジルのマリオさんは「よいことのために手を取りあおう」というメッセージを発表しました。

現在、ロシアとウクライナが戦争をしています。イスラエルとハマスもそうです。

アメリカと中国とで世界の覇権争いをしています。

このような、分断されがちな昨今において、「一緒に手を取りあって、いいことをしましょう！」そういったシンプルかつ力強いメッセージだと思います。

ところが、就任直前にその職を辞されました。

理由ははっきりしませんでした、相当のことがあったのでしょう。

そして、新しい会長としてイタリアのフランチェスコ・アレツォさんが就任されました。

継続性というものを重視するRI理事会はメッセージの変更をしなかったのですが、私は新会長からのメッセージをいただいたときには大変驚きました。

当クラブの活動計画書に、その全文が印刷されていることに感謝を申し上げます。

前任者のマリオさんは何が何でも「会員増強」、その重要性を述べられました。

ところがアレツォ会長は、「会員同士の信頼と友情」、それが大切だと言っています。

そして、「変革とは戦略から始まるものではなく、一人ひとりの人格や接し方から始まる」、そのように言っています。

そして、ロータリーは私たちを変えてくれます。

そのために「よいことのために手を取りあおう」というメッセージをあらためて投げかけられました。

さて話は変わりますが、ロータリーが誕生して今年で120年が経過しております。

ロータリーは、1905年にアメリカのシカゴという町で誕生しました。

その頃のシカゴは、一握りの資本家が政治経済の主導権を握っていて、私利私欲の拝金主義が横行していました。お金を得るためには何をしてもいい、自分だけがよければいい、という弱肉強食の世界だったようです。

ロータリーを作った人は、ポールハリスという青年弁護士でした。

幼少期に田舎のおじいさん、おばあさんに育てられ、正直で純粋な心を持つ人だったようです。殺伐としていた当時のシカゴの街に法律事務所を構えて、商売は繁盛していました。

しかしながら、弁護を依頼する人は私利私欲のために嘘ばかりつく人が多かったのも、そんな人ばかりを相手にしていることが寂しくなりました。

そんなあるとき、数人の市民と話し合う機会がありました。

そこでは、自分たちが勝手に自分の言いたいことを言い、誰にも遠慮することなく内輪の話をしていたのです。

この時、ポールハリスが気づいたのは、この人たちの職業がみんな違って、ということでした。

この「1業種一人」という線で会員を集めればきっと楽しいクラブができるに違いない、このように確信してポールハリスが実行に移したのが1905年であり、これがロータリークラブの始まりと言われています。

そのころアメリカではいろいろな社交クラブがありましたが、他のクラブは会員間に格差がついて必ずしも楽しいクラブになっていませんでした。

その点ロータリーは、職業分類という点で、会員は全く平等で、当初より人気が高く、会員はどんどん増えていきました。

会場を一定にせず、場所を変えて例会を開いたのでロータリーと名づけられました。

ロータリークラブに集まる人は、事業家や職業人なので、話題は商売の話が中心になります。

しかしながら一業種一人なので競争がなく、会員は他人とは思えないくらいに仲が良くなり、お互いの恥を平気で話し合っ、困ったことは相談しあう、慰めあう、進んでお互いを助け合うそのような親睦が生まれました。

このように、初期のロータリーのころから、多様性、そして「誰もが、笑顔で、居心地がいい」、というDEIの考え方が、すでにあったのだと、私は思っております。

さらには会員同士の利益を目的としての商業取引も行われるようになったそうです。

当時の定款には、クラブの目的は「会員の親睦と事業拡大の増進」と書いてあったそうです。

しかしある日、この定款を見たある人がこのように言いました。

「こんな仲間だけのことを考えているだけのクラブは長続きしませんよ。」

会員以外の人たち、そして地域社会に役に立つことをすべきでしょう。

それなら私も喜んで入会しますよ」 そのように言ったそうです。

これを聞いたポールハリスは定款に「シカゴ市の最大の利益を図り、市民として忠誠を尽くす」という一文を追加しました。

そしてクラブが最初に行った活動が、シカゴ市への公衆便所設置運動でした。

当時のシカゴにはお客さん用のトイレが、百貨店もしくはバーくらいにしかなかったそうです。

そこで、トイレを使いたい通行人は、百貨店で何かを買うか、バーで一杯ビールを飲む必要がありました。

そこでシカゴクラブは、抵抗する団体を抑えて市内2か所に公衆便所を設置しました。

そのおかげで多くの市民が安心してトイレを使うことが可能になったわけです。

このようにロータリーの最初の奉仕活動は、単に金銭を渡すだけではなく、市民生活に影響を与えるような、いわゆる地域社会に「インパクトをもたらす」活動だったのでした。

「奉仕」という言葉を最初にロータリーに持ち込んだのは、アーサー・フレデリック・シェルドンという人です。経営学者であった彼は次のように唱えました。

自分の事業が発展するためには、自分のもうけを優先するのではなく、まずお客さんのことを考えてください。

そして、その得られた利益は自分が独占するのではなく、従業員や取引に関係する人たちと適正に再配分すること、そうすることで最終的には継続的な事業の発展につながるようになります。

これを「最もよく奉仕するもの、最も多く報われる」という言葉で表現しました。

この職業奉仕を実践することによって、ロータリーの会員の職場は活気を取り戻して、成功者も

多くなり、ロータリアンは信念を持つことが出来ました。

そして相手の身になって行動することは単に職業を成功させるだけではなく、社会をも良くする、「他人のことを思い遣り他人のために尽くす」という「超我の奉仕」という言葉が生まれました。

この2つの言葉をロータリーでは「奉仕の理念」と呼んでおります。

これが初期のロータリー思想の歴史ですが、この「奉仕の理念」を実践しようとしたロータリアンを紹介いたします。

それはカーネル・サンダースさん、皆様ご存じのケンタッキー・フライド・チキンの創業者です。1920年、29歳の時に、アメリカ、インディアナ州のロータリークラブに入会しています。

そこで「他の人に最高のサービスをする人が、最も利益を得る人だ」ということを学びます。

そして、その後ケンタッキー州にうつり、ガソリン・スタンドの経営を始めました。

当時のケンタッキー州は道路が舗装されておらず、車はどれも埃まみれで走っていたそうです。

そこでサンダースさんは、車が店に来ると、まず車の窓を洗うことにしました。

そして、ラジエーターの水やタイヤを点検して、最後に「ガソリン入れましょうか？」と聞いたそうです。当時そういうサービスはほとんど無かったようですが、彼は、道を聞くためだけに店に入ってきたお客さんにもそのようにしたそうで、これが評判となり店は繁盛しました。

それでも、なおサンダースさんは「来る人にもっと喜んでもらえること」を常に考えていました。

ある日、お客さんのほとんどがおなかを減らしていることに気づきます。

「車にガソリンが必要なように、お客さんにはおいしい食事が必要だ」そのように考えました。

そして「サンダース・カフェ」という、たった6席しかない、小さなレストランを併設しました。

元々、彼は料理が上手だったそうです。

なぜかというところ6歳の時に父親を病気で失い、働きに出ていた母親の代わりに小さい弟と妹の面倒を見ていたからです。料理の方法や味付けのコツを子供のころより母親から学んで、家族のために料理を作っていました。

そして単に料理が上手なだけではなく「人が喜ぶ料理を真心を込めて作る」という信念を持っていました。シェフの仕事から洗い場、レジ係を一人でこなし、店には「おいしくなかったらお代は結構です」とまで書いてあったそうです。

特にフライド・チキンは人気があり、それが美

美味しいということで店は繁盛したそうです。

さらに人に喜ばれるために考えたのがモーテルでした。

「旅行者は安心して心地よく泊まれるところを探している」ということで店のそばにモーテルを作りました。

また仕事以外でも、他人に喜ばれることが生きがだったサンダースさんは、街の孤児院をたずね、恵まれない境遇の子供たちにアイスクリームやお菓子の提供をしています。特にクリスマスの日にはターキーを料理して毎年のように訪問していたそうです。

サンダースさんが救ったのは子供だけではありません。

アルコール中毒患者の更生にも積極的に取り組んでいます。時にはアルコールを絶たせるために自分のモーテルを使わせたこともあったそうです。

こういった功績から44歳の時、ケンタッキー州知事から、カーネル、陸軍大佐の名誉称号を受けました。

このように「一生懸命働き」そして「人の喜ぶことを真心を込めてした」サンダースさんですが、良いことばかりではありませんでした。

49歳の時、レストランが火事で全焼してしまいました。

また65歳の時には、近くに高速道路が出来たために店のお客さんが減り、店が破産してしまいます。たくさんの奉仕をしたにもかかわらず、報われなかったのです。

さて彼はどうしたのでしょうか？

このまま年金生活になる方法もありましたが、最後まで一生懸命働くことを選択しました。彼にはフライド・チキンが残っていました。

評判の良かったフライド・チキン、その作り方に改良を加えました。

そして圧力釜を用いて、彼にしかできないフライド・チキンを完成させました。

そしてそれをレストランで提供するのではなく、作り方だけを教えて、各レストランのメニューとして出してもらう、そしてチキン1ピースにつき数セントのロイヤリティーをもらう、というまさにフランチャイズ契約のはじまりともいえる事業を始めました。

最初はなかなか契約が取れなかったそうですが、彼にはチキンへの絶対的な自信がありました。

1軒一軒店を回って根気よく説明し、納得の話合いが出来れば契約したそうです。

時には自分からパスする店もありました。

調理場が清潔でない店や、サービスの行き届い

ていない店とは契約しませんでした。

そこで用いた原則が、次のことです。

そのビジネスに嘘偽りはないか？

そのビジネスは関係するすべての人に公平なものか？

そのビジネスは良好な人間関係を作っていくものか？

そのビジネスは関係するすべての人にとって有益なものか？

どこかで聞いたことがあるテストです。

こうして1年間で7つの店と契約を結び、すべての店が大繁盛します。

すると今度は店のほうからサンダースさんへ連絡が来るようになり、4年後にはアメリカで200店舗、さらに5年後には600店舗となり、アメリカ最大のフランチャイズレストランとなりました。

こうして65歳の時にすべてを失った人が、ケンタッキー州で最も有名な人といわれるまでになりました。

彼は晩年のインタビューで「あなたが得たもので一番うれしかったことは何ですか？」と聞かれた時に「孤児院の子供たちが私をサンタクロースのように慕ってくれたことです」と答えています。

先日、この、世界で最も有名なロータリアンと2ショットを撮りました。

彼の胸には私と同じロータリーのバッジがついていました。

みなさんもケンタッキー・フライド・チキンに行ったときは見てみてください。

さて話は変わりますが、現在、国際ロータリーの最優先事項はポリオの根絶です。

「あと少し」といわれて数年が経っておりますが、私はこの活動を支持しています。

なぜなら、医学的に根絶が可能だからです。

ポリオの原因となるウイルスは人の中でしか生きられません。

ですから、一旦根絶してしまえばこの地球上からなくなります。

ポリオワクチンには2種類あり、口から飲ませる経口のもの、ウイルスの毒性を減らしたものを注射で投与するものとがあります。

日本でも2012年まではこの経口ワクチンを使っていましたが、今ではより安全な注射での投与をしています。

パキスタンのような貧乏な国ではまだこの経口生ワクチンを使っています。

1本が3ドル、40滴の量があります。一人2滴飲ませるので、20人分となります。

一人当たり20円くらいになります。

パキスタンの出生数は年間630万人であります。日本の9倍です。

死亡率も高く、新生児死亡は1000人当たり40人、25人に一人は亡くなる計算です。

それでも5歳以下の子どもは推定で4400万人といわれています。

しかもちゃんとした戸籍のようなものはありません。

そこでは「見つけたら片っ端からワクチンを飲ませる」という方法をとっています。

これは高速道路でのバスの中での投与です。バスのすべてを軍が止めて、ワクチンを飲ませることが義務づけられています。

3人でチームを組んでバスに入っていきます。

写真の後ろには、銃を持った軍人がいます。

こうやって私たちを守ってくれているのです。

バスの中の様子です。

左側がワクチンを飲ませているところ、右が指に印をつけているところです。

こうやって投与が済んだ子供の左の小指にマジックで印をつけていきます。

そして印のない子を見つけてはワクチンを飲ませる、こんな原始的なやり方でワクチンは投与されています。

ワクチンの投与は、バスや列車の中ですが、多くは戸別訪問、家に直接出向いて投与をしています。

イスラム教では、家族以外の男性は家に入ることができないので、女性が多く活躍しています。

彼女たちのようなワーカーがパキスタンには40万人おられます。

パキスタンでは、宗教的な理由でワクチンを拒否する家族もおられます。

特に過激な思想の人はワクチンを西側のものとして毛嫌いされる人もいます。

悪態をつかれたり、突き飛ばされたり、殴られたり、時には殺されることもあるそうです。

そんな危険なところで、1日8時間、週5回働きます。給料は1か月22,000円です。

それでも皆、誇りを持ってこの仕事をしています。ジェンダーギャップ指数というのがあります。

これは男女格差を数値化したものですが、パキスタンは148位と“ドベ”でした。

そういった中で、ポリオワーカーとしての教育を受けることができたこと、そしてこの仕事が自分の国の子供たちの役に立っている事、それが彼女たちの献身的な活動のモチベーションとなっています。

チーム・ポリオ・ジャパンのメンバーです。

驚いたことに、パキスタンにチームとして入っている国は、日本以外にありません。

大体15名くらいのメンバーで、年7～8回、我々の仲間が前線で頑張っています。

ただ私は、この活動に参加して思ったことがあります。

その一つは、やはりワクチンを正確に子供に投与するのが自分は下手だなあ、ということです。

プラスチック製の容器がぼろいこともあって、2滴びったり落とすのはコツが要ります。

ポリオワーカーの方は約1秒で投与するのに、私のような素人は時に10秒以上かかったりします。

下手をすると、何滴も投与してワクチンを無駄にすることもあります。

私が社会に貢献する一番の方法は、ここではなくて、自分の職場なのだと改めて思いました。

それから、日本に帰ってきて思ったことがあります。

それはポリオを根絶出来たら、とてもいいことがあるという事です。

先日の報道で、日本の出生数が70万人を切った、というニュースがありました。

それでもポリオがあるうちは、ワクチンとして一人20,000円かかります。

以前は経口ワクチンを投与していましたが、今ではより安全な不活化ワクチンを投与するので、70万人いれば150億円、ポリオが根絶されれば、それだけ浮くことになるのです。

そしてこの人たちは、インドでポリオに感染した人たちです。

歩くことも困難で、物乞い以外の職業に就くことは出来ません。

ポリオを根絶して、このような子供のない世界を目指したい、そのためにも、これからも皆様のご協力をお願いいたします。

ところで、シカゴにある国際ロータリーの本部の会長室にはこんなものが置いてあるそうです。

「ロータリーに入る10の理由」とあります。

奉仕する機会、とか自己の成長、とか友情とかありますが、最後にあるのが「楽しい」であります。

私の今年度の願いは、「地区の皆さんがロータリーを楽しむことです」

「ロータリーを楽しむ」ということは、ロータリーを知ることだと思います。

皆様のクラブの例会を魅力ある価値のあるものにする、ことだと思います。

クラブで楽しいイベントを企画する、ことだと思います。

いろいろな奉仕活動、その達成感を楽しむ、こ

とだと思ひます。

次の世代の若者たちの成長を楽しむ、ことだと思ひます。

自分の人生を豊かにする、ことだと思ひます。

そして、最終的には「世界の平和」という大きな夢を描いていただきたいと思います。

今年度、川本会長は私の信条と同じテーマを掲げてくださいました。

そして、7月の第1例会では、会長時間としてそれを取り上げてくださいました。

あらためて感謝を申し上げたいと思ひます。

最後のスライドです。

「よいことのために手を取りあおう」

広島空港ロータリークラブの今後のますますのご発展を祈念して話を終えたいと思ひます。ご清聴ありがとうございました。



歓 迎

2025-2026 年度 国際ロータリー第 2710 地区

土肥 慎二 閣下 ガバナー公式訪問



2025-26 年度 RI 会長メッセージ

日時 2025年8月20日(水) 11:30~12:00 会長・幹事懇談会
12:30~13:30 例会
13:30~13:35 集合写真撮影
13:40~15:10 フォーラム

場所 広島エアポートホテル

クラブ フォーラム





フォーラム プログラム

司会 森崎ガバナー補佐

- 開 会
- 会 長 換 拶
- ガバナーご挨拶
- 自 己 紹 介 (RC 役職・氏名・職業分類)
- 活 動 計 画
SAA (河井会員)・クラブ管理運営委員会 (三好委員長)
公共イメージ委員会 (松下委員長)・会員増強委員会 (鶴田幸彦委員長)
奉仕プロジェクト委員会 (近藤委員長)・財団委員会 (鶴田秀樹委員長)
- フォーラム議題
- 講 評 と 指 導
- 謝 辞
- 閉 会

土肥 慎二郎ガバナー

副会長 三好 敏之

フォーラム座次表

ガバナー代行幹事 秋置宏治様	ガバナー 土肥慎二郎様	ガバナー補佐 森崎正治様	ガバナー補佐幹事 薄井一徳様
-------------------	----------------	-----------------	-------------------

会長 川本賢爾
副会長 クラブ管理運営委員会 委員長 三好敏之
会員エレクト 岡田雄幸
宣慰会長 小島隆次
幹事 行徳幹事代行リーダー 松本大正
副幹事 河井一徳

クラブ管理運営委員会 幹事 松本大正
クラブ管理運営委員会 幹事 松本大正
クラブ管理運営委員会 幹事 松本大正
財団委員長 鶴田秀樹
奉仕プロジェクト委員会 副委員長 松本大正
奉仕プロジェクト委員会 幹事 松本大正

SAA 中野大正	公共イメージ委員会 委員長 松下治典	会員増強委員会 委員長 鶴田幸彦	奉仕プロジェクト委員会 委員長 近藤一也
-------------	--------------------------	------------------------	----------------------------

フォーラム議題

1. 例会の充実 (クラブ管理運営委員会 委員長 三好敏之)

本年度のクラブ管理運営委員会の方針の中で卓話について、例年ではプログラム委員会だけで毎回卓話の内容を決めていましたが、それではプログラム委員会の負担が大きくなり、内容も偏ってしまうので、数年前から卓話の担当を会員全員に割り振り、会員自身が卓話をするか、どなたか卓話者の紹介をお願いしてもらっています。今のところ内容も偏らず、プログラム委員会の負担も減って好評ですが、他のクラブで工夫を凝らして卓話をしているクラブがあればご教授ください。

2. 会員が参加したい親睦行事とは？

(クラブ管理運営委員会 クラブ奉仕・親睦部門リーダー 住田 誠)

当クラブでは、季節に応じて、ご家族も参加できる親睦が目的の例会を行っております。新年度の順に、納涼例会、月見例会、クリスマス会、新年例会、花見例会と年に5回開催しております。今日のこの会場となっているホテルには、屋外に屋根付きバーベキューサイトも整っており、飲食を伴う事業には送迎もしてもらっていますので、とても恵まれた環境にあると思っております。それぞれの親睦例会の中で、会員やご家族の方も楽しめる催しなどができれば良いのですが、外部の方や業者に依頼をすれば、その費用によって、例会の参加費が高くなることに、例えば1万円の参加費が2万円とかになることに、企画者として抵抗があります。費用をかけずに、会員同士の親睦も深まり、さらに家族の方も楽しめるような、魔法のような親睦事業があれば良いのですが、なかなか思いつきません。そこで、他のクラブで、参加費をかなり高く設定してでも、普段なかなか体験できないような内容の親睦事業をされているクラブがあれば、参考までにその内容を教えていただきたいと思います。また、そのように高額な例会を実施して、目的とする親睦ということに対して、成果はあると思われますか？

3. 意義ある奉仕活動とは？ (奉仕プロジェクト委員会 委員長 近藤一也)

奉仕活動の理念に基づき活動する中で、地区補助金を利用して計画を企画するとき、次の様な疑問が浮かび上がってくる。

1. 財団への申請と事業実施年度の関係 (2か年になる点) 一か年で解決
2. 実施年度のガバナーのロータリー財団寄付目標額達成協力の要請
3. 地区補助金申請の条件に、支援をするだけの逼迫性・急迫性の解釈
4. 支援先事業所に有償の役員としてロータリアンが在籍している場合の条件緩和 (社会福祉法人)
5. プロジェクト資金の補助金下限14万円、上限60万円の検討 (下限以上の財団寄付目標額の要請が生じるケースが懸念される)
6. 補助金の使用が困難であれば財団への寄付をする意味が問われる

4. 次世代を担う青少年への奉仕とは？

(奉仕プロジェクト委員会 青少年奉仕部門リーダー 楠部 滋)

我が国は今後、外国人労働者の力を借りなければ国力を維持することができない状況のように思います。これらの外国出身の人々が、困窮して犯罪にかかわったりせず安心して生活できるように、ロータリアンの会社の外国人青年労働者を支援すること、外国人を理解して日本での生活に協力と支援のできる日本人青少年の人材を育てていくことが、これから必要ではないでしょうか。